

保 育 かながわ

発行所
横浜市神奈川区沢渡4の2
神奈川県保育会
発行人
富 田 英 雄
題字
故 内山岩太郎 筆



神奈川児童福祉課長 佐藤 浙夫

子どもの未来を拓く 環境づくりにむけて

今年の夏は例年になく暑い日が続き、水不足の報が毎日のように新聞をにぎわしていました。地方によっては苦勞された所もあることに思いをはせるとともに、

で、毎日、子どもたちが健やかに育つための環境づくりにいそしんでおられる皆様にあらかじめ敬意を表したいと思えます。

援しようという視点にたつて、計画の策定にあたることとしております。児童福祉に造詣の深い有識者等を委員とする検討委員会が八月に発足しておりますので、年度内にもご報告がいただけるのではな

本県はさし迫った状況になかったことに感謝したいと思えます。保育活動にとつては、とりわけ夏には水が大変重要な教材となっております、保母さんもほつとされたこと

さて、今日子どもをめぐる社会状況も大きく変化しております。特に最近の少子化傾向は、子どもの成長にも少なからず影響を及ぼすことが心配されています。

いと考えております。子どもの未来は、即ち国の、そして神奈川の未来であります。子どもを安心して産み育てるための環境づくりのために、全力を尽くしていきたく思っておりますので、保育の実践分野からのご支援、ご協力をぜひお願い申し上げます。

れ保育現場でご活躍の皆様方にはさぞかしご苦勞の多い夏であったこととご推察申し上げます。

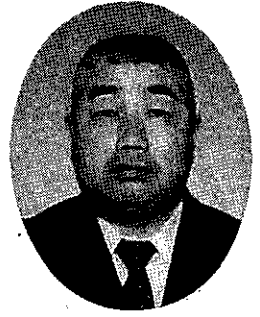
めぐる社会状況に対応して、長期的な展望に立った児童家庭福祉施策を新たに策定する必要があるとの認識のもとに、「かながわ子ども未来計画（仮称）」づくりに取

り組むことといたしました。子どもを社会の一員として、権利の主体性を尊重すること、また将来を担う子どもの養育を社会全体で支

また、学校や幼稚園のように夏休みのない保育園に通っている子どもさんたちにとつても、自然の厳しさを体験した夏だったのではないかと思えます。こうしたなか

担う子どもを社会全体で支





保育所の大変換期を迎えて

神奈川県保育会会長 富田英雄

保育園はどう変っていくのでしょうか。「バタバタすることはない。子ども達の幸せを考え、今迄通りしっかりと地に足のついた保育をしていけばいいんだ」という偉い先生もいますが、厚生省が変えようとしている保育の制度はそんなに単純なものではないと思います。昨年十一月に厚生省から保育問題検討会に出されたタタキ台は、同会の答申が両論併記という形でなされた段階で消えたはずですが、「措置入所と直接入所の徴収基準の境目を、国基準の第七階層に定めた事には必ずしもこだわらない」と厚生省の柴田保育課長は答えていますから、現在省内で検討中で今の段階では何もない。白紙みたいなものです

とは言いながらも、その境目を移して実施したい意欲は充分と受けとれます。八月十六日付の官庁速報では、大蔵省は保育制度改革の七年度からの実施を目指し、厚生自治の両省と協議を行う方針であり、更に「行政改革の面からも保育制度改革を実現させる必要がある」と判断、両者に強く働きかけていくとあります。又保育所に競争原理を取り入れるという行政改革の側面からもこの改革は必要と指摘。「改革の趣旨は理解されたと思うので、今年はその実現に向けた解決策をじっくり話し合っていくきたい」（主計局）と書かれていますから「無い袖は振れない」と大蔵省は厚生省に対して強硬にこの制度実施を迫らざるを得ないと思

われます。この官庁速報の記事には、子どもの「子」の字も出て来ません。国は子ども達の事を忘れてしまったのでしょうか。たしかに高齢人口は急激に増加し老人福祉に沢山のお金がかかる事は解りますが、だからこそ将来の国の財政の担い手である子ども達の足腰を強くしておくかなければならない事を忘れてしまったのでしょうか。措置費の上にあぐらをかいていたつけが、子ども達にまわって来たとは考えたくありません。厚生省は本当に子ども達の事を忘れてしまったのでしょうか。私達は本当の意味での子どもの達の後盾にならなければと思います。

九月のはじめに厚生省予算の概算要求の概要が出されました。エンゼルプランは「白紙要求」省内留保との事です。つまりプロジェクトの結果待ちということ。保育所は、「子どもが健やかに生れ育つための環境づくりの推進」という標題にはなっていますが、中味は子ども未来財団の資金による特別保育事業が殆んどで新しいものは何もありません。厚生省が児童福祉法の見直しを進めている今、私達は保育のニーズや母親の就労形態の多様ななどをはじめ、保育の現状に合った法改正が行なわれるよう力強く訴えて行きたいと思えます。そして、どういった保育所制度に様変わりしても慌てぬよう、より良い保育所を目指して頑張りますよう。

第28回 神奈川県保育事業大会 於 神奈川県社会福祉会館

第二十八回保育事業大会が、去る五月二十一日に保育会、保母会主催、神奈川県、社会福祉協議会、共同募金会、民間保育園協会のご後援により行われました。

第一部「花のおさなご」の斉唱のあと、富田会長の挨拶、一三七名の永年勤続者の表彰が行なわれました。その後、飯田県福祉部長はじめ、四名の方々からご祝辞をいただきました。



続いて保育会、保母会が会場を別にして総会を開催し、平成五年度の事業報告と決算、平成六年度の事業計画案、予算案を審議しそれぞれ承認されました。

保育会では、高齢社会の到来で保育所制度の根本的改革を生み出すそうとしている現在、会員に広く意見を求めて十分に検討を重ね、提案や要望を国県市町村に訴えると共に、会員相互の県市町村への連携を密にして、児童福祉のために保育所運営を守っていく。また時代に即応した信頼される保育所

作りのために、働らく親たちや地域で子育てをする親たちの保育ニーズに応える為、園の各種事業を支援して研修会や情報提供、調査研究及び関係機関への働きかけを積極的に行う。保母会では出生率



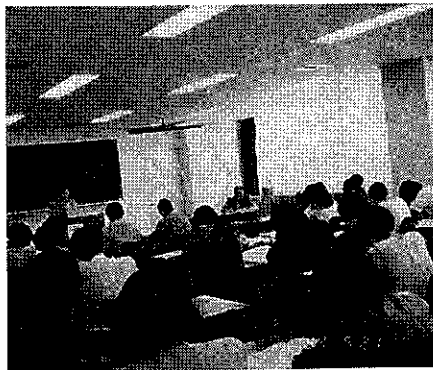
の低下や、国民生活の変化から家庭養育が困難となり、従来にも増して幅広い対応が求められ、保育のあり方が検討されている現在、子ども達の真の幸を願い、保母相互の交流をはかり、研さんをとおして時代に敏感に対応する保育者をめざす、又期待に応えられるよう学部の研究討議に入りました。

「大きくふくらませる 子どもたちの夢」
—すてきな保育所、そして私たちをテーマに子ども達が健やかに生れ育つことは私たちがすべての願いです。そしてそんな子どもたちの夢、大いなる可能性を育む場である保育園に期待される様々なニーズに対応し利用しやすい保育園にということで、三会場に別れ研究討議がすすめられました。

子どもたちの夢

すてきな保育所、そして私たちをテーマに子ども達が健やかに生れ育つことは私たちがすべての

の低下や、国民生活の変化から家庭養育が困難となり、従来にも増して幅広い対応が求められ、保育のあり方が検討されている現在、子ども達の真の幸を願い、保母相互の交流をはかり、研さんをとおして時代に敏感に対応する保育者をめざす、又期待に応えられるよう学部の研究討議に入りました。



平成六年度 保育会専門部会紹介

総務部

部長 都築 融 光

総務部長を任命され、新しい考
え方に立って仕事をしようと思
いますが当面は一年間の事業をどう
円滑に進めて行くかが私の役割で
あります。一方、会長の会の運営
方針や考え方を会員及び各部が十
分に理解し機能して居るかどう
かそれらを総合的に見ながら会長
の指示を仰ぐ、これも大切な仕事と
心得ます。いずれに致しまして

務部には、前草山部長が称賛した
栄、小川の両副部長が残り、坂本
副部長を加え部員計六名と云う充
実したスタッフのもと、なるべく
仕事を分担し、会の運営にあたって
行きたいと存じます。総務部は会
全体にかかわる仕事です。皆さん
のご協力をお願い致します。

研修部

部長 藤田 勝 義

県保育会を保育の分野に於いて
又福祉の業界に於いてしっかりと
した位置付けに行きたいと考
えます。そして、会長が十分活動
ができるよう支援体制を作って行
きたいと思致します。幸いにして総

研修部の事業項目は次の三点で
す。① 主任保育・中堅保育研修
会(例年十一月、県内で一泊)
② 調理員研修会(例年一月、横
浜市内、日帰り) ③ 園長研修
会(例年二月、昨年度より県外視
察の一泊研修へ発展)
今年も上記の各研修会の実施月

広報部

部長 亀谷 美代子

本年度、広報部員は九名です。
長く広報にかかわって、その経験
を即發揮、企画会議をリードする
川口副部長、今年度、第一番目の
ニュースは保育事業大会でした。

は例年通りになる見込みです(最
も適切な時期として定着化してい
るものと考えられます。)
限られた予算の枠内で、可能な
限り良質・高水準の研修内容を確
保することが研修部に課された責
務です。しかし研修部のメンバ
ー十人のみで、これに対応し
てゆくことは大変に困難です。そ
こで富田会長をはじめ本会の幹部
の先生方及び会員の先生方のご後
援、ご協力をお願い申し上げます。
第です。私共研修部一同、先達の
方々の功績、ご努力に敬意を表し
つつ、精進させて戴く所存です。



カメラを手に各分科会をまわった
のは長谷川、高橋カメラマン、ペ
ンを走らせるのは橋本記者……と
活動開始です。

編集会議は短期決戦。熱気がほ
とばしります。そのエネルギー源
は九名部員のチームワークです。

本年度も保育会の事業内容を
地域へ、各地域の状況を地域相互
に伝える役割を十分果たせるよう
努力いたします。保育制度が改
革されようとしている。今、国
の情報、県の状況、各市町村、
保育現場の現状をタイムリーにお
伝えすることも検討しています。

地域の个性的で豊かなニュー
スがありましたらご応募くださ
れば幸いです。

調査研究部

部長 草山 充

先日、「エンゼルプラン」の骨
格が示されました。今、話題は直
接入所制度導入の時期と方法に移
っております。

これから二年をかけ、全会員の
お知恵とご協力を賜わり、会員の
ためになる調査研究を実施すべく
部員一同頑張ります。ご支援を!

予算対策部

部長 岩沢 貞 吉

ところで、この四月新しい部
員で出発するにあたり、テーマ
が検討されました。保育所制度
問題は本年度事業計画どおり、
県内他団体との合同で対応しよ
うということになっております
ので、あえて外しました。そこ
で、これからの保育所の在り方
の基本に据えられるであろう「諸
記録の在り方」に焦点を絞りに
ました。保育の客観化や利用者の
人権にかかわる問題は、新保育
所制度(選ばれる保育所)や子
どもの権利条約という文脈の中
で、きわめて大事な事柄になるの
です。

急浮上した保育制度改革案は、保
育問題検討会の報告書も両論併記の
結果となり、これが如何に難問題
であるかが伺われます。保育現場
は勿論、保育界全体も喧々こうこう、
様々の考え方や意見で混迷してお
ります。それだけに、今年予算
対策活動には、今までと異なり、
皆が対処しにくい状況を作ってし
まっていますと思われまます。ただ、
保育制度が如何に改革されるとし
ても、この時だからこそ、保育に
関わる者や組織が結束し、長年苦
労して積み上げてきた、子ども達
のための保育環境を守り、子ども
達を健やかに育てるための役割と



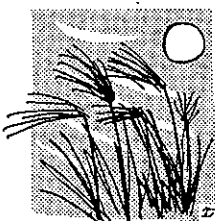
努力を続けていくことが、何より
大切なことと思致します。会員の先
生方には、何かとご事情もありが
たしいことと存じますが今年度も予算
対策活動の資金カンパにご理解を
頂き、特段のご協力を賜りますよ
う、お願い申し上げます。

公立専門委員会

委員長 亀谷 美代子

公立専門委員会は総務部に属し
ています。会員は十三名で、組織

化されて、本年度で五年を迎え
ます。この間に、「県下の公立保
育所の実態調査」「多様な保育ニ
ーズに対するの保育所の方向性を
さぐる」さらに、「理想的な園長
像を探る」と目標を設定し検討を
重ねてきました。本年度は委員
を継続した三名の方の経験を生か
しながら、新たな出発をしました。
課題としては特別保育事業が推進
されてからの「各市町村の状況の
把握」厚生省発刊の「利用しやすい
保育所をめぐって」「21世紀
福祉ビジョン」を参考に「これか
らの保育の方向性を見出だす」こ
とを検討することになりました。
この過程では保育制度改革が示さ
れると思致しますが、真の児童福祉
を再三確認しながら進めていきたく
いと願っています。



第35回 関東ブロック保育研究大会

「大きくふくらませる、子どもたちの夢、すてきな保育所、そして私たち」を主題として約二、〇〇名の保育関係者が東京に集い、第三五回関東ブロック保育研究大会が七月二日、二二日の二日間にわたり開催されました。

例年は三日間のところを短縮して行われましたが、保育制度改革が提案されるなど、大きな転換期を迎えようとしている緊迫感をみなぎらせた二日間でした。

第一日は高層の都庁舎に向かい合わせの京王プラザホテルで、特別分科会をふくめて、一四分科会が開かれました。

各分科会では数名の方から意見発表がなされ、それを基にしたフロアとの討議、助言者の先生のご指導と、各分科会とも一日中熱心に展開されていました。



神奈川県からは三つの分科会で発表がありました。第六分科会では秦野市立渋沢保育園園長鎌田初子先生が「社会情勢の変動に伴い平成元年『地域育児センター』として指定を受けた経緯と状況等」を発表し、処理委員会にて全員一致で、全国大会での発表が決定されました。

第八分科会では相模原市の立正保育園園長坂本紀美子先生が「詳細なデータ」を裏付けに、社会の多様なニーズに対応した実践や、その中からの熱い思いを語られ、約二〇〇人参加の会場からは多数の共感が寄せられました。

第十一分科会では、平塚・中郡保母会が、三歳未満児の「生活と遊び」、遊びやすい環境づくりの発表をし、好評でした。

第二日目は会場を歴史感のある日比谷公会堂に移し、東社協保母会の美しいコーラスで幕が上がります。各界のご来賓、各地区保育会会長のご臨席のもと開会式が行われました。

行政説明では厚生省児童家庭局保育課長柴田雅人氏より、保育制度改革のこれまでの経過と現状それらに対する厚生省の思いが話され「現場の主体性ある改革を」の呼びかけが殊に印象的でした。

午後には新潟県柏崎市保育研究会による、「生き生き保育体験をめざして」というテーマで子どもの遊びについての研究発表が始まり、つづいてはアトラクションで中高

生の華やかにも格調高いマーチングバンド、バトンが舞台せましと繰り広げられました。

講演では女優で社会福祉法人トット基金理事長の黒柳徹子氏がユーモアのなかにも子どもの心を伝え、さらに地球規模で子どもの置かれている現状と今の日本では考えられないほど食糧、医療、教育が必要とされていることを予定の時間を三〇分以上超過して訴えました。

大会を閉じるにあたっては「保育所は児童福祉施設として、子育て支援の拠点として、真に子ども達の幸せに結びつくよう、その使命達成のために邁進する。」という趣旨が大会宣言として採択され、暑い夏の熱い東京大会から次期開催地横浜にバトンタッチされました。



第四回を迎えた県下市町村児童福祉主管課長と県保育会委員との保育懇談会が七月二十九日(金)、横浜駅西口のホテルリッチ横浜において開催された。参加者は厚生省より保育課の柴田課長、県より佐藤児童福祉課長以下三名、市町村担当課長二十四名、オプザーバーとして横浜市・川崎市よりそれぞれ一名、保育会より三十一名であった。

最初に富田会長より主催者挨拶と、本年度は特別に柴田課長に出席していただけることになった経緯について説明があった。

次に柴田課長が挨拶をかね措置制度改革の提案に至った経緯が説明された。その中での話の内容はおおむね次のようであった。

利用者にとって使いやすい保育所を目指すものであって、安易な市場原理の導入や、儲け本位の保育所を作るのではなく、保育における福祉の考えをながしるにすることを理

市町村児童福祉課長との保育懇談会



解して欲しい。これからは現場主導の仕組みの上に立って制度改革を行っていくようにしていきたいと考えています。

次に、県児童福祉課長より挨拶をいただき、延長保育の取り組みや乳児保育の年度途中受け入れの推進など、当面の課題についての説明があった。

その後司会者より、各市町村の課長さん方の紹介があり、当日のメインである懇談会が富田会長を議長にして開始された。

まず、今年度より実施されているA・B・C型の時間延長型保育サービスマターなど、需要の多い長時間保育について話し合いがもたれた。ここでは、この制度が補助要件としている対象人数や延長が必要な時間帯を、実態として満たしにくい等の意見が多く出された。この議論の中では、一時間延長型の制度創設の可能性が示唆された。

また、乳児保育の話題に移り、

その進展がなかなか困難な事情や乳児保育に対応するためのスペースや設備問題の改善についての意見が強く述べられた。

さらに、無認可保育サービスマターが広まる動きの中で、認可施設が存在価値をどう発揮していくかという観点から、無認可施設についての情報交換がなされた。

その他、保育ニーズを把握するためにアンケート調査を実施している例など、県下各市町村の実情について、課長さんや委員から活発な情報の交換が行なわれた。

厚生省の柴田課長を迎え、直接に国の考え方を聞いたり、県下各市町村の課長さん方との白熱した懇談によって、変革期の公私保育園の現状と対応について、十分な認識を深める懇談会となった。



伊勢原地区

伊勢原市は県央に位置し、又西に大山、丹沢を臨み、人口十万人の小さな農住都市、山林、水田、畑、果樹の町、葡萄、柿、梨、苺、蜜柑作は北限である。文化、史跡、向薬師は三大薬師の一つ三ノ宮比

地区紹介

々多神社には郷土資料館が設けられている。大山阿夫利神社本殿は一、二五一米の山頂にあり、雄大な眺望が広がり、素晴らしいものです。太田道灌の墓が市内に二ヶ所あり、洞昌院が銅塚、大慈寺が首塚と呼ばれている。十月

月第一土、日曜日に、道灌祭が盛大に行われ、各地からの観光客が訪れます。伊勢原市には保育園が公立四園、民間四園の八園あり、小・中・高生百数名で各保育園で保育の体験実習をしております。保母会員は八十数名です。平成六年度県保母会第三十回体育祭が伊勢原市で、十月三十日

(日)に開催されます。只今準備中です。

小田原地区

小田原市は人口二十万弱の都市ですが、保育所の数は公私合わせで三二あつて各地域にバランスよく配置されています。しかし、町のドーナツ化現象に加えて少子化傾向も進み、子どもを預ける親のニーズも多様化してきました。そ

こで、産休明けからの乳児保育、午後六時以降の延長保育、さらには障害児保育等特別保育事業に取り組む園が増えてきています。さらに、地域育児センター制度を取り入れて、育児相談、情報提供、一時預かり等乳幼児の健全な育成に積極的に取り組む園も年々増加しています。

公私一体の組織としての「保育会」の活動は活発です。保育所職員講習会、園長セミナー、新任職員研修会といった研修事業や園長、保母、調理員等保育所で働く職員が一堂に集まって開く新年懇親会、

子どもたちの作品や職員の作品を展示する作品展も大変好評です。

この作品展と同時に開催の保育事業大会は会の一大イベントで今年で三六回目を迎えました。

平塚地区(花水台保育園)

公立第一号の

地域育児センターとなつて。

本市では公私二六園ある中で私立五園が地域育児センターとして実績を積んでおります。公立の当園は、「地域に開かれた保育園」をテーマに保母と話し合い共通理解のもとに始めた開放保育が順調に進み、安心して遊べる場として母親から喜ばれ一年が経過しました。この六月に地域育児センターがオープンになり、予算もなく、ゼロからの出発に等しいが、やれば何かが見えてくる。そんな期待の方が大きい。開放保育の延長線上ではあるが、確かなものと少しづつ、手ごたえを感じています。民間主導から脱皮して公立が大きく飛躍する時が来た様になります。公私の別なく行政と連携

と調和をとりながら、保育園の本来の役割を見失うことなく、地域に密着した共生の実現を計りたい。各園で次々に積極的な子育て支援が展開されていることは喜ばしい。今、一時保育の要望が強い中で育児センターのメニューを如何に生かして育てるかが大きな課題だろう。

編集後記

これからの保育のあり方について様々な立場からの提言や議論が相ついでいます。それらの議論は利用しやすく且つ、質の高い保育をどう保証するかという大変難しい問題を含んでいきます。しかし、大事なことはそういう問題について、保育に携わる一人ひとりが切実さをもつて自前の考え方を生み出す努力をすることではないでしょうか。子どもから片時も目を離すことなく、それを考え続けるといわずみずみずしい実験的精神が今ほど必要な時はないように思われます。

広報部 松本健嗣